

伝承部会



写真： 大年寺 惣門



はじめに

あなたは、「伊達な文化」と聞いてなにを思い浮かべますか？

金箔を散りばめた華麗な装飾。あるいは、特徴的な瑞鳳殿の佇まい。いや、なにも思い浮かばないという人も多いと思います。

でも、当時、「伊達家」は、粋な文化の最先端をいっていました。「伊達男」という言葉。粋な、カッコいいを意味するこの言葉は、政宗公が語源ともいわれています。

また、勇ましいイメージの強い政宗公は、実は超一流の文化人、しかも料理人でもありました。晩年の政宗公は、料理の研究を重ね、自分の料理を将軍に振る舞ったと伝えられています。

「馳走とは旬の品をさり気なく出し、主人自ら調理して、もてなすことである」

政宗公の名言です。

もちろん、「伊達な文化」の神髄は、食文化だけにとどまりません。

「伝承部会」では、①社寺仏閣、②美術工芸文化、③食文化、④芸能文化の4つの視点から、政宗公以来、脈々と継がれてきた「伊達な文化」の伝承を図っていきます。

くわしい活動は、今後、「活動報告」のページで紹介していきますので、乞うご期待！